

平成21年度 病害虫発生予察情報 発生予報第3号（6月前半）

平成21年5月28日
島 根 県

予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや少ない
		赤かび病	少ない
		うどんこ病	やや少ない
	イネ	ヒメトビウンカ	やや多い～多い
		ニカメイチュウ	少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並
果樹	ナシ	イネミズゾウムシ	やや少ない
		黒斑病	やや多い
		黒星病	平年並
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	平年並
		ハダニ類	平年並
野菜	カキ	カキクダアザミマ	平年並
	タマネギ	ポトリ糸菌による葉枯れ	やや少ない
		べと病	やや多い～多い
		腐敗病・軟腐病	平年並

タマネギべと病注意報発令中（4月2日発表）

ヒメトビウンカ注意報発令中（4月23日発表）

中国地方1か月予報（5月23日～6月22日・広島地方气象台5月22日発表）

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

気温	40%	40%	20%
降水量	40%	20%	20%
日照時間	30%	30%	40%
	低い(少ない)	平年並	高い(多い)

A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①初発生は5月16日に確認された。
- ②巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率0%（平年5.8%）、発病茎率0%（平年3.0%）で平年に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ①ムギの生育は平年に比べてやや早い。
- ②巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率0%（平年5.0%）、発病茎率0%（平年0.2%）で平年に比べて少ない。
- ③向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない
①巡回調査地点における5月上旬の発生量は、発生圃場率1.5%（平成6.9%）、
発生率0.2%（平成2.4%）で平成に比べてやや少ない。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや多い～多い

予報の根拠

①4月23日付け注意報第2号参照。
②予察灯への飛来は、5月第4半旬まで認められない。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容
発生地方 県下全域
発生時期 やや早い
発生量 少ない

予報の根拠

①前年の第2世代成虫発生量は平成比1%で、越冬量は少ないと考えられる。
②予察灯への飛来は、5月第4半旬まで認められない。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容
発生地方 県下全域
発生時期 やや早い
発生量 平成並

予報の根拠

①予察灯への飛来は、5月第4半旬まで認められない。
②4月下旬の圃場すくい取り調査では、捕獲数は2.2頭（平成1.7頭/20回振）、
発生圃場率は70%（平成56.3%）で発生量は平成並みである。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容
発生地方 県下全域
発生時期 やや早い
発生量 やや少ない

予報の根拠

①前年の新成虫の誘殺数は平成に比べてやや少なく（平成比36%）、越冬成虫量は平成に比べてやや少ないと考えられる。
②予察灯への初飛来は、5月第2半旬でほぼ平成並みである。
③有効積算温度による予測（5月21日現在）では、今後の気温が平成並みに推移した場合、越冬成虫の水田侵入盛期は平成に比べてやや早い見込みである。
④向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 県下「二十世紀」栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

①5月25日の巡回調査では、発病葉率3.8%（平成2.1%）であり、発生量は平成に比べてやや多い。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容
発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 平成並

予報の根拠

①5月25日の巡回調査では、発生量は平成並みである。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容
発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生時期 平成並
発生量 やや多い

予報の根拠

①初飛来日は4月11日で平成並みである。

- ②前年のナシヒメシクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ③フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシクイの誘殺数はやや多い。

④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容
発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

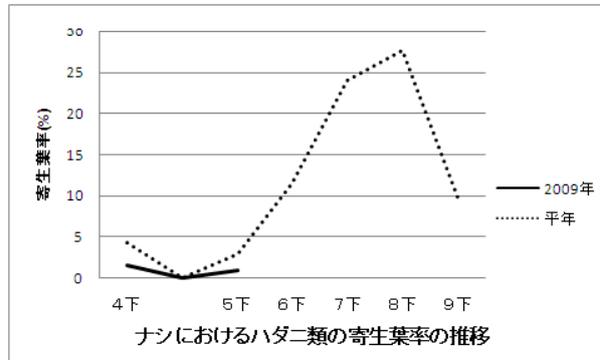
- ①初飛来日は4月11日で平年並み。
②フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容
発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
②5月下旬の巡回調査（安来市）では寄生葉率は0.9%（平年2.9%）とやや少ない。クワオオハダニが中心。
③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。



3) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容
発生地方 県下カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
②5月8日の巡回調査では巻葉被害が認められた。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率20.0%（平年49.7%）、発病株率0.5%（平年12.0%）とやや少ない。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ペト病

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや多い～多い
予報の根拠 注意報第1号 参照

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率20.0%（平年21.1%）、発病株率0.1%（平年0.4%）で平年並みである。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。
農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp